

大阪市 生物多様性 戦略



大阪市環境局環境施策課

生物多様性保全に取り組む意義

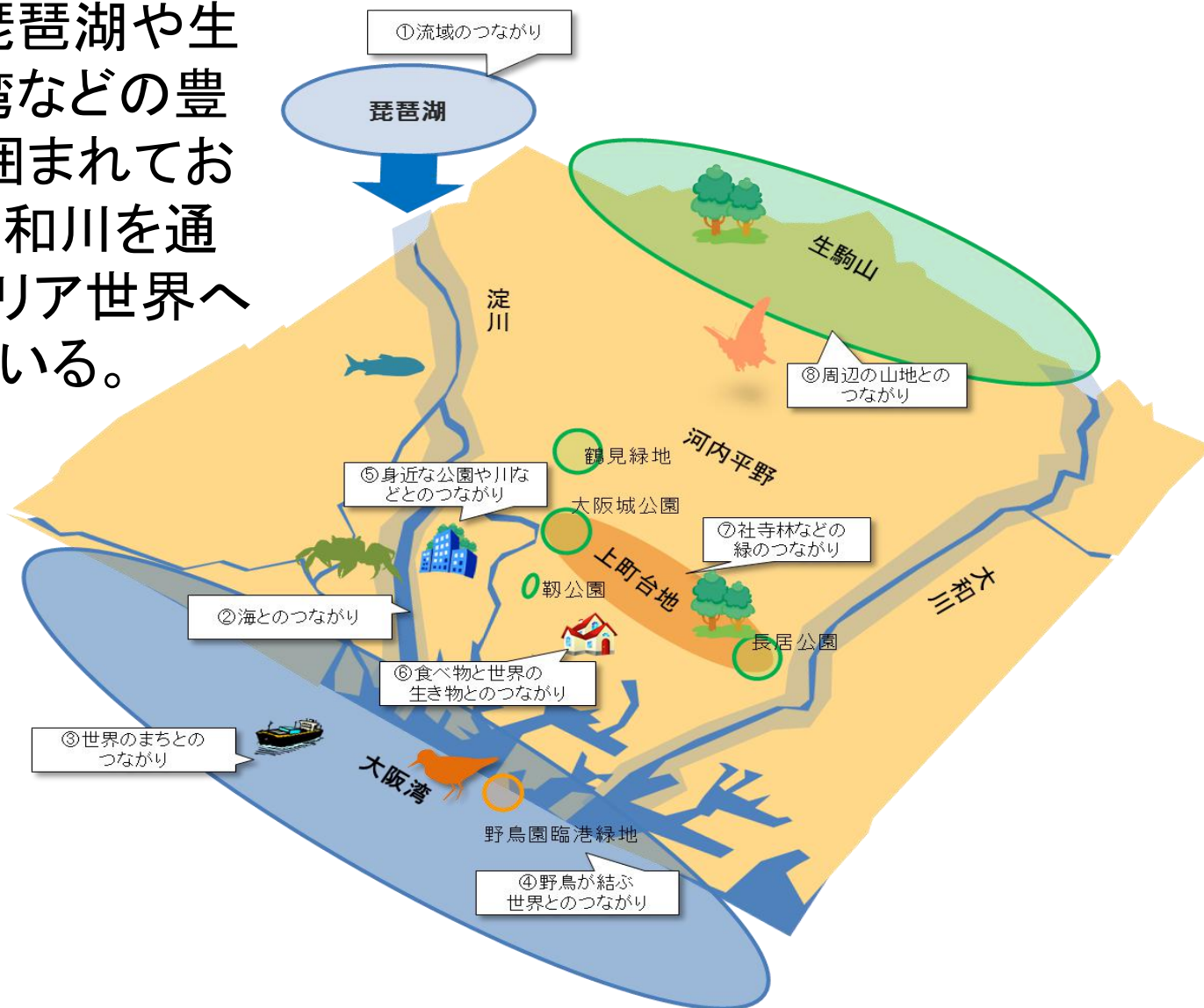
- ◆ 野生生物種の減少は地球規模の危機。国際条約及び国家戦略のもと、地方自治体も生物多様性保全に取り組むべき責務
- ◆ 大都市が環境教育や啓発に力を入れ、普段の生活の中で誰でもできる変革を進めていくことが、世界の生物多様性に好影響
- ◆ 暮らす人、訪れる人にとって、生活の質や都市の魅力アップに
- ◆ 公害を克服し、発展してきた大阪市の今後の環境戦略、成長戦略にとって不可欠なテーマ（SDGs達成に貢献する環境先進都市）





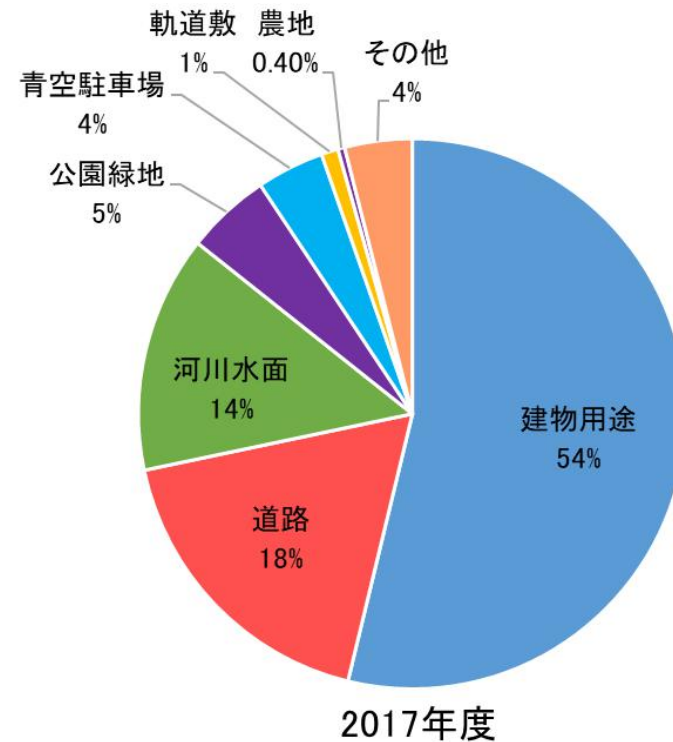
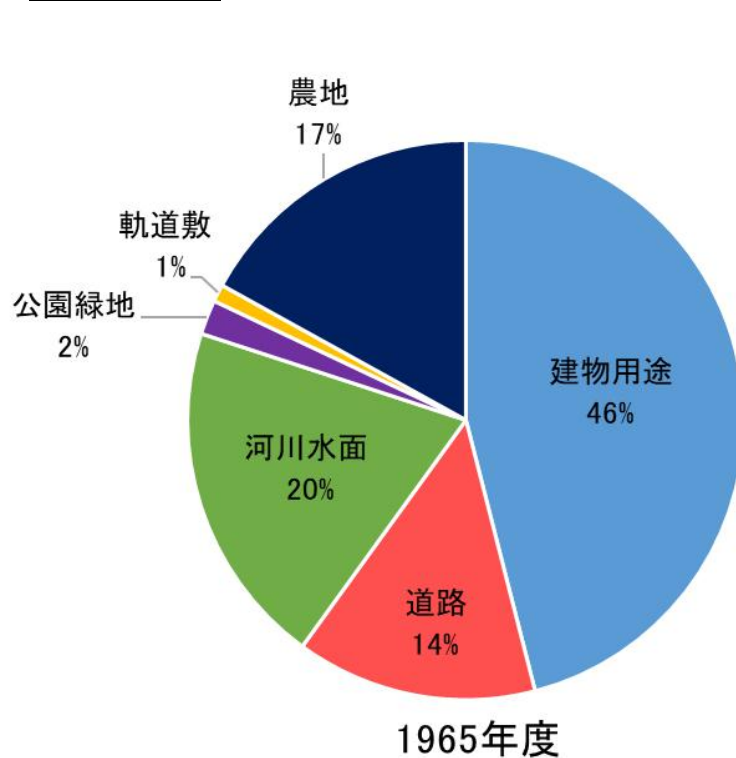
周辺エリア・世界とのつながり

- ◆ 大阪市は、琵琶湖や生駒山、大阪湾などの豊かな自然に囲まれており、淀川や大和川を通じて、周辺エリア世界へとつながっている。



大阪の立地、土地利用

- ◆大河川の下流部に立地し、人工的な干拓や河川の付け替えなどによって造られたまち、「八百八橋」、「水の都」
- ◆人口や企業が集積し、農地や河川水面は減少。ほぼ全域が市街化



残された貴重な自然

◆淀川ワンド群(※1)や、まちなかの社寺林、臨海部の埋立て地に整備した野鳥園(※2)など貴重な自然が残されている。

◆いずれも人手が加わって、形成されてきた人工的な自然環境



淀川（城北ワンド）



社寺林（住吉大社）



大阪湾岸の埋立地の野鳥園

※1 淀川の河川敷にある多数の池。19世紀に作られた人工の囲いの周りに土砂がたまり形成された。

※2 1906年に埋立てを開始した埋立地の中に、池や干潟、緑地などを整備。1983年に開園

新たな生息・生育空間の創出

◆近年の都市整備により、屋上緑化など新たな生息・生育空間を創出



新梅田シティ（民有地での在来種を中心に植栽）



なんばパークス（商業施設での屋上緑化）



大阪市役所 屋上緑化



NEXT21（民間の実験集合住宅）



私たちの暮らしと生物多様性の関わり

私たちの暮らしと生物多様性の関わり

大阪名物「たこ焼き」は、「世界の生物多様性の恵み」なくして、食べることはできません。タコはモロッコやモーリタニアなどから、小麦はアメリカ、カナダ、オーストラリアなどから輸入されています。

具材

タコ、ネギ、天かす(アブラヤシなど)、紅ショウガ(ショウガ・梅など)など

調味料

鰹節(鰹、カビ)、青ノリ(アオサ)、ソース(トマト、リンゴ、ニンジン)、タマネギ、サトウキビ、トウモロコシなど



醤油

大豆、小麦、麹菌、乳酸菌、酵母など

生地

小麦粉、鶏卵、山芋、鰹や昆布のだしなど

醸造酢

イネ、酵母、酢酸菌など

ソースの香辛料
コショウなど

古代～中世: **海**を望む台地に誕生した都

近世: **日本国中**の生き物に支えられた大阪文化

近代: **世界中**の資源を消費する時代へ

なんで「なにわ」なん?

大阪の自然を今に伝える



上町台地の北端付近の潮の速から「浪速(なみはや)」と呼ばれ、「難波(なにわ)」と訛った説。豊かな海の恵みを生み出す大阪湾を「魚(な)の庭」と呼んだ説など、諸説あります。

なにわは食の発信地

諸国の生き物の賑わいに支えられた商業都市



大阪と言えば「食い倒れ」。江戸時代、大阪は諸国の食材や特産物が集まる「天下の台所」として日本一の商業都市に発展しました。

なにわにもあるんやで、伝統野菜

発展するまちを支えた野菜たち



田辺大根、金時人参など、様々な「伝統野菜」が生産され、発展する大阪のまちの消費を支えてきました。

文楽もそうなん!?

クジラのヒゲが支える伝統芸能



大阪が誇る伝統芸能「文楽」。セミクジラのヒゲを使った仕掛けが、文楽人形の芸術的な動きを可能にしています。

そして今…

大都市に住む私たちの日々の暮らしは、自然や生き物に支えられています。



企業や環境団体、教育・研究機関や 展示施設などの集積

◆消費者・事業者の意識・行動の変革を先導していく力がある。

- 森林破壊を引き起こさない木材調達や、熱帯雨林の再生に取り組む企業
- 自然環境の保全や希少生物の保護などに取り組むNGO/NPO、ボランティア

◆自然史博物館、動物園や植物園、大学・研究機関などが 集積。



自然史博物館（自然を知り学ぶ場を提供）



天王寺動物園（生態的展示を実施）

戦略の策定

1992年 生物の多様性に関する条約 採択

1995年 生物多様性国家戦略 策定

2008年 生物多様性基本法 制定

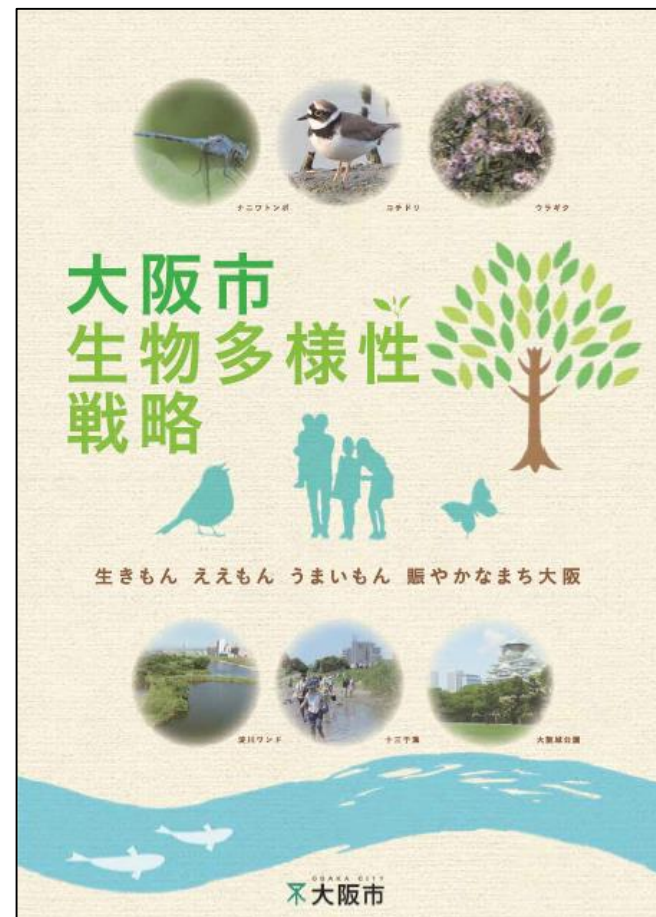
2010年 COP10において愛知目標 採択

国内外で生物多様性保全の枠組づくりが進捗

2018年3月 大阪市生物多様性戦略 策定

2021年3月 現行戦略の計画期間の満了
⇒ 次期戦略の策定(予定)

2021年～ COP15開催予定(2020年～新たな世界目標設定)



戦略がめざすもの

《2050年 めざすまちの姿》

「生物多様性の恵みを感じるまち」

大都市でありながらも身近なところに貴重な自然があり、
自然や生き物との関わりを実感できるまち

生物多様性の恵みを受けていることを多くの人々が感じ、
生物多様性を守る行動につなげているまち



市民、事業者、環境NGO/NPOなどとの
多様なパートナーシップにより実現

戦略の概要

■ 計画の位置づけ

- 「生物多様性基本法」第13条に基づく生物多様性地域戦略

■ 計画期間

- 2050年のめざすまちの姿を展望しつつ、計画期間は2020年度までの3年間

■ 計画の目標

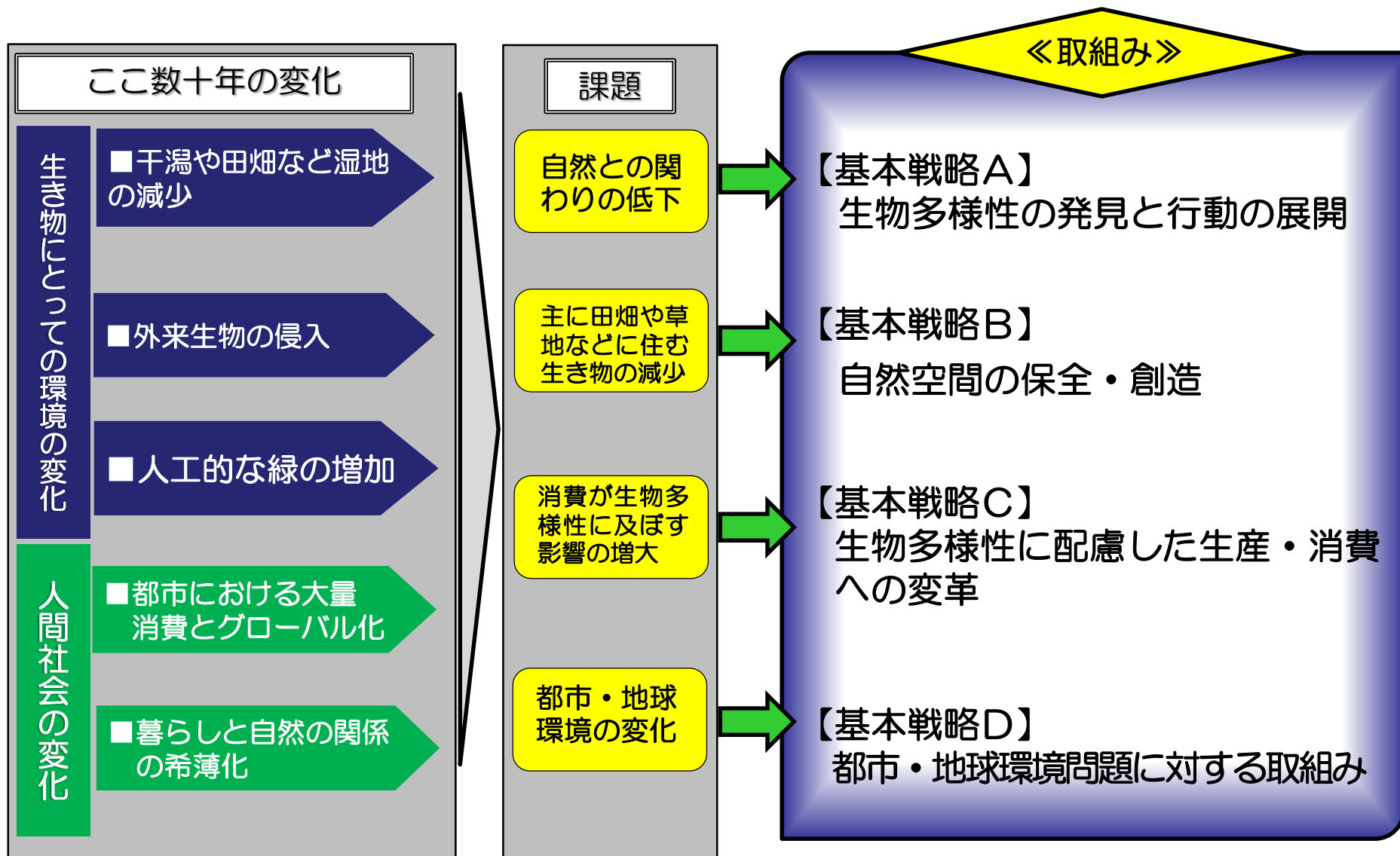
《2050年までのめざすまちの姿》
「生物多様性の恵みを感じるまち」

《2020年度までの目標》

- 「愛知目標」や「持続可能な開発目標（SDGs）」など世界の動きを踏まえた生物多様性の保全をめざします。
- 生物多様性の保全のため、市民・環境NGO/NPO・民間事業者・研究機関・教育機関・行政などのパートナーシップの仕組みを形成します。
- 生物多様性の意味を知っている市民の割合50%以上にするとともに、自然や生き物を身近に感じる市民を増やします。



目標達成に向けた取組み





基本戦略A 生物多様性の発見と行動の展開

◆方針Ⅰ 身近なところでの生き物・植物の発見

【主な取組み】 小学校での生き物さがし、大阪市域の身近な場所での生き物調査 など

◆方針Ⅱ 自然体験を通じ、身近な都市の魅力としての気付きを促す

【主な取組み】 自然体験観察園を用いた環境学習講座、水辺教室 など

◆方針Ⅲ 環境教育・啓発

【主な取組み】 おおさか環境科、出前講座、HPやSNSを用いた情報発信 など



小学校での生き物さがし



自然体験観察園での講座



副読本 おおさか環境科 12

基本戦略B 自然空間の保全・創造

◆方針Ⅰ 生物多様性の保全

【主な取組み】市営公園、干潟、湿地等の維持管理、外来生物対策 など

◆方針Ⅱ 生き物の生息・生育空間である生態系ネットワークの拠点(エリア)の創出

【主な取組み】市民ボランティアと共同した花苗、建築物の新築にかかる緑化協議 など

◆方針Ⅲ 生態系ネットワークの形成と広域連携の取組み

【主な取組み】街路樹の保全・育成、市営公園等の維持管理、
大阪湾再生推進会議・寝屋川流域協議会への参画



種から育てる地域の花づくり



野鳥園臨港緑地



屋上庭園（なんばパークス）



基本戦略C 生物多様性に配慮した生産・消費への変革

◆方針Ⅰ 暮らしと生物多様性の関わりの発信

【主な取組み】区役所における食育講座、なにわ伝統野菜にかかる講座の実施 など

◆方針Ⅱ 民間事業者の生物多様性の取組みの促進

【主な取組み】「大阪市環境表彰」制度の活用、HPを用いた情報発信 など

◆方針Ⅲ 生物多様性に配慮した生活への変革

【主な取組み】「食べ残しゼロ」の推進に関する協定締結、食品ロス削減の啓発、
生物多様性保全に貢献している認証制度についての情報発信 など



淀川の魚介類「淀川産（もん）」
なにわの伝統野菜



生物多様性民間参画
ガイドライン



「大阪市食べ残しゼロ
推進店」の目印



基本戦略D 都市・地球環境問題に対する取組み

◆方針Ⅰ 都市環境問題に対する取組み

【主な取組み】 ヒートアイランド対策、水環境モニタリング、市民ボランティアと協働した清掃活動 など

◆方針Ⅱ 地球温暖化に対する取組み

【主な取組み】 大阪市地球温暖化対策実行計画(区域施策編・事務事業編)に基づく取組みの推進

◆方針Ⅲ 国際貢献

【主な取組み】 Team Osakaネットワークによる取組み、海外現地調査・海外からの視察受入れ など



2019年1月おおさかプラスチックごみゼロ宣言



大阪マラソンとタイアップした「大阪マラソン “クリーンUP” 作戦」



ホーチミンでの太陽光発電設備の導入

効果的な推進方法

◆教育との連携

約500校の小中学校を所管する地方自治体としての強みを活かす。

◆市民、事業者、環境NGO/NPOなどとのパートナーシップ

協働や啓発、人材育成をはじめ、環境表彰により幅広い人材を活かす。

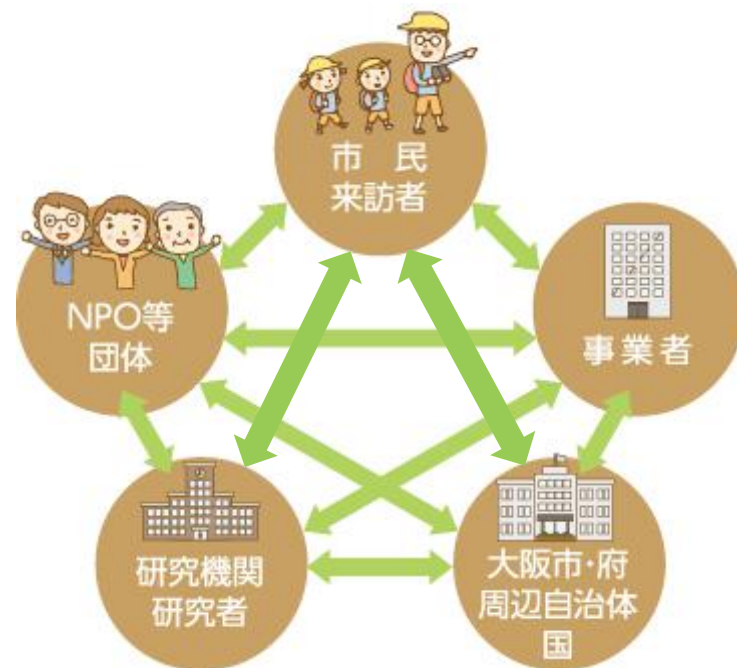
◆ホームページやSNS等での情報発信



大阪市環境学習情報サイト
なにわエコスタイル



鶴見緑地公園内の
なにわECOスクエア

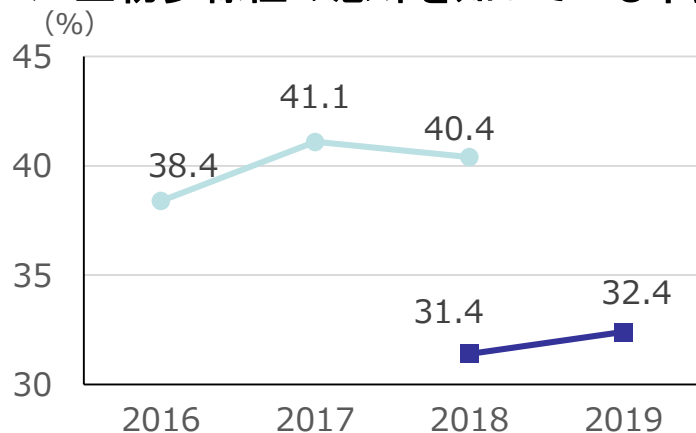


連携・協働のしくみの概念図

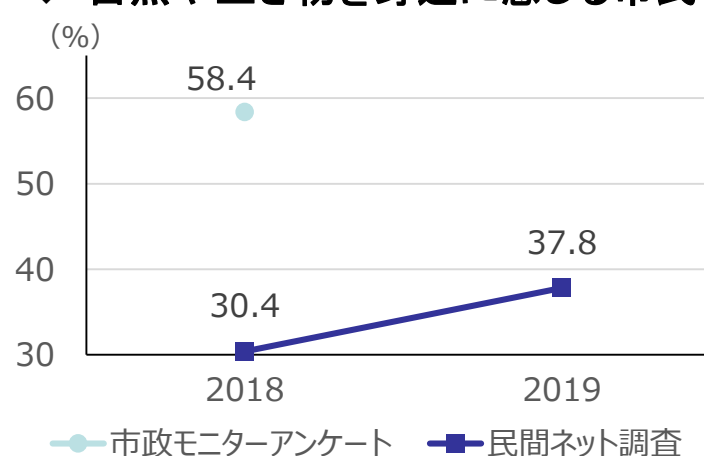
現行戦略の進捗状況

生物多様性の意味を知っている市民の割合50%以上にするとともに、自然や生き物を身近に感じる市民を増やします。

◆ 生物多様性の意味を知っている市民



◆ 自然や生き物を身近に感じる市民



調査方法について

● 市政モニターアンケート

本市の公募に応募いただいた(20歳以上の大阪市民)を対象とした、インターネットアンケート
※回答者は、市政への関心が高い傾向がある。

● 民間ネット調査

民間調査会社が保有するモニターを活用したインターネットアンケート

※ 市政モニターアンケートは、2019年3月31日をもって廃止されたため、以降は民間ネット調査のみ実施。

次期戦略の方向性

■ 課題認識

- 2050年めざすまちの姿「生物多様性の恵みを感じるまち」の実現に向けて、市民や事業者等の生物多様性に関する理解度の向上を図るなど取組みの深化や拡充
- 事業者や環境NGO/NPO等と連携し、大阪市における生物多様性の保全に関するモニタリング・評価の整理
- 大阪市生物多様性戦略の進捗管理等の情報発信

■ 方向性

- 次期戦略期間は、大阪市環境基本計画の期間を踏まえ、2030年度とし、これまでの取組みを深化させ、「生物多様性の意味を知っている市民」及び「自然や生き物を身近に感じる市民」だけでなく、生物多様性保全に貢献する取組みを行う市民等を増やしていく。
- 多様な主体との連携協働により、生物多様性の保全及び持続可能な利用に取り組むとともに、大阪市内の生物相（生物種の分類、数など）について、概ね10年までの間隔でとりまとめを実施するなど生物多様性のモニタリング・評価を行う。
- 戦略に基づく取組みの進捗状況を大阪市環境白書やホームページに掲載し、公表する。

ご清聴ありがとうございました。

